

教育・研究などへの取組状況(令和7年度)

総合工学システム学科	系・コース
	一般科目
職階	氏名
准教授	中山良子

項目	取組状況
教 育	<p>◆令和7年度担当科目:「ダイバーシティと人権」/「社会2」(歴史総合)/「社会3」(公共)</p> <p>◆担当科目の取り組み状況(工夫・改善した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ダイバーシティと人権」:メディアリテラシーについての解説を改良。 ・「社会2」:人権教育と歴史教育との連なりを強化。特に今日の「排外主義」・「ナショナリズム」の文脈を踏まえ、「共生」に関する問いを投げかけた。 ・「社会3」:ヘイトスピーチの克服に関連して、エビデンスの確保に関する授業を行ったうえで、今日の社会課題に関するプレゼンテーションの時間を設けた。 <p>◆大阪公立大学「人権問題研究センター」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から「人権問題研究センター」の会議にオブザーバーとして参加。 ・連携に関して「大学・教科との連携による人権教育「ふらっと高専」の深化」日本高専学会 第31回年会講演会 9月3日(大阪公立大学工業高等専門学校)を発表。 ・ふらっと高専と「社会2」、また「人権問題研究センター」との連なりを相互にフィードバックしている。たとえば「社会2」では教科書で水平社運動を扱い、ふらっと高専では公立大廣岡浄進教授に担当していただき「部落問題」を、さらに「人権問題研究センター」主催の『花開け!!若き打ち手たち』を「社会2」でも紹介し、人権に関する重層的で多面的な学びが可能になった。
研 究	<p>◆研究:〈青少年〉規範の構築過程の解明を進めた</p> <p>◆学会発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「「非行少年等」という問題/規範の創造—〈青少年〉規範の構築における「少年警察活動要綱」の影響」第77回日本教育社会学会 2025年11月7日(大阪大学吹田キャンパス) ・「暴力対策と〈青少年〉の変遷」同時代史学会 2025年12月6日(名古屋大学東山キャンパス) <p>◆科研費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動スタート支援(2024-2025)「警察史を踏まえた〈青少年〉概念形成の分析—警察及び中央青少年問題協議会に着目して」代表研究者 ・基盤研究(C)(2023-2026)「高度経済成長期における青春をめぐるイメージとその受容に関する歴史社会学的研究」研究協力者
社会貢献	<p>◆寄稿</p> <p>『エトセトラ VOL.14』に「高専生とジェンダー・セクシュアリティを学ぶ」掲載 一般雑誌に高専におけるジェンダー・セクシュアリティ教育のあり方を紹介。</p>

<記入上の注意> ※可能な限り1ページ/年度にまとめてください。

教育:該当年度の担当科目,担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載。

研究:該当年度の研究テーマ,学外発表実績,外部資金獲得状況,共同研究などを記載

社会貢献:該当年度の公開授業,出前授業,学協会活動などを記載

教育・研究などへの取組状況(令和6年度)

総合工学システム学科	系・コース
	一般科目
職階	氏名
准教授	中山良子

項目	取組状況
教 育	<p>◆令和6年度担当科目 「ダイバーシティと人権」/「社会2」(歴史総合)/「社会3」(公共)</p> <p>◆担当科目の取り組み状況(工夫・改善した点) 「ダイバーシティと人権」ではワークショップを活用、またその際、作業を共有することなどを通じ、活発な意見交換が促された。 「社会2」では動画を活用し、歴史を身近に感じてもらった。 「社会3」では図書館と連携し、社会に対する自らの興味を深めてもらった。 「社会2」「社会3」では大福帳を用い学生の疑問を収集、授業で応答した。</p> <p>◆特記すべき教育方法の実践例 ・大阪公立大学工業高等専門学校「ふらっと高専」講演会 2024年5月15日 ・社会科・人権教育推進室コラボ企画「裁判所に行ってみよう！」2025年3月25日(人権教育推進室と連携し、自由参加企画として大阪地方・高等裁判所への傍聴を企画・実施)</p>
研 究	<p>◆研究テーマ 戦後日本における「青少年」規範の構築とセクシュアリティ</p> <p>◆学外発表実績 ・「戦後日本における〈青少年〉観の形成—司法・中央青少年問題協議会・警察に着目して」2024年9月13日第76回日本教育社会学会(信州大学)</p> <p>◆論文 中山良子「「太陽族」の社会問題化から考える〈青少年〉のセクシュアリティと統治—新警察法(1954年)施行後の「少年警察」の展開と東京母の会連合会の動きを踏まえて」『女性学年報』第45巻 2024年</p> <p>◆科研費 ・研究活動スタート支援(2024-2025)「警察史を踏まえた〈青少年〉概念形成の分析—警察及び中央青少年問題協議会に着目して」代表研究者 ・基盤研究(C)(2023-2026)「高度経済成長期における青春をめぐるイメージとその受容に関する歴史社会学的研究」研究協力者</p>
社会貢献	なし

<記入上の注意> ※可能な限り1ページ/年度にまとめてください。

教育:該当年度の担当科目, 担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載。

研究:該当年度の研究テーマ, 学外発表実績, 外部資金獲得状況, 共同研究などを記載

社会貢献:該当年度の公開授業, 出前授業, 学協会活動などを記載

教育・研究などへの取組状況(令和5年度)

総合工学システム学科	系・コース
	一般科目
職階	氏名
講師(任期付)	中山良子

項目	取組状況
教 育	<p>◆令和5年度担当科目 大阪公立大学工業高等専門学校「社会2」 (他大学等:甲南女子大学「女性の歴史」、京都芸術大学通信学部「文化研究Ⅰ」、京都文教大学「プロジェクト科目1A セクシュアリティ・ジェンダー」「プロジェクト科目1B セクシュアリティ・ジェンダー」、「人権論」)</p> <p>◆担当科目の取り組み状況(工夫・改善した点) 「社会2」において、学生の理解が深まるよう動画や図版を多数使用した。 またリアクションペーパー(大福帳)を導入し、学生とコメントのやり取りを行うことで、学生の知的好奇心を活かす授業運営に努めた。</p> <p>◆特記すべき教育方法の実践例 大阪公立大学工業高等専門学校「ふらっと高専」講演会 2023年11月15日 大阪公立大学工業高等専門学校「ふらっと高専」講演会 2024年2月16日</p>
研 究	<p>◆研究テーマ 戦後日本における「青少年」規範の形成</p> <p>◆学外発表実績 「「純愛コンビ」が生まれた時代—統治と表象が生み出す「青少年」像」日本女性学研究会・近代女性史分科会2023年11月18日 「戦後「青少年」概念の形成—「青少年問題」政策の展開から」日本女性学研究会・近代女性史分科会、2023年7月1日</p> <p>◆科研費 2023-2026年度、日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)「高度経済成長期における青春をめぐるイメージとその受容に関する歴史社会学的研究」研究協力者</p>
社会貢献	特になし

<記入上の注意> ※可能な限り1ページ/年度にまとめてください。

教育:該当年度の担当科目,担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載。

研究:該当年度の研究テーマ,学外発表実績,外部資金獲得状況,共同研究などを記載

社会貢献:該当年度の公開授業,出前授業,学協会活動などを記載